

～私たちはその知恵を得ることができる～

誰もが知っているであろう「バッハ」。バッハの代表作には「マタイの受難曲」「口短調ミサ曲」などがあり、有名な楽曲が数多くあります。例えば「口短調ミサ曲」は偉大な神を崇め礼拝するミサ曲ですが、この大作をバッハは2時間で作ったと言われています。この複雑で綿密な楽曲を一つとってみても到底私たちにできるものではなく、神の賜物としか言いようがありません。バッハは神の偉大さをよく理解していた事が楽曲を聴く中で感じる事ができます。なぜならバッハの楽曲全てが神を礼拝するものであり、崇めるものだからです。『また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知る事ができますように。』（エペ1:18,19）

バッハは今でこそ有名ですが当時から今のような扱いではありませんでした。当時の宮廷に仕える音楽家たちの暮らしはそれ程裕福ではなかった事は歴史をみれば知る事ができます。「口短調ミサ曲」もバッハの死後190年ほど後に発見され世に出ました。そして今日まで素晴らしい作品として世の中の多くの人を知るような作品となっているのです。神を信じ神の知恵によって多くの音楽家として多くの作品を生み出したバッハはエペソの御言葉のとおり、死んだ後も神の栄光に富んだ人生だといえるのではないのでしょうか。神の偉大さを知っていたバッハの生き様によって、バッハの子々孫々に到るまで保障された豊かな生活を過ごす事ができています。私たちも利益や名誉や目の前のある問題など、目先のことばかりに目が向いた生き方ではなく、死後においても良いものを残していけるような人生でありたいと願います。そのような人生にする為には、まず神の偉大さを知る必要があり、神の知恵を得る事が大切です。神の偉大さを見ている人はその日暮らしをすることがありません。神の偉大さを確認する事で私たちがどのように生きれば良いのかわかります。そして神の知恵は私たちが将来に渡って歩むべき歩み方を示すべきものであり、とても大切です。知恵を得るためには土台が必要です。その土台が知識です。知識も自分の経験の範囲では大したものではありません。しかし、人間には人間にしか無い能力の一つとして人の情報を自分の知識として得るという能力があります。つまり知識も出所が良ければ私たちの素晴らしい土台になります。聖書は6千年にわたり多くの人が一貫してキリストの愛と神の素晴らしさをうたってきました。紀元前に起こった出来事、イエス様の生き方を聖書という書物から学ぶ事ができるのです。この聖書があるから私たちは見たことのない事を学び知識として得る事ができます。しかし、知識をただ得ただけでは過去にとられる古い人のままです。この知識からポジティブな生き方をする為には、繰り返した歴史を繰り返さないようにする知恵を持っている方を知る事です。繰り返さないように教えているのが神の愛なのです。昨年4月に天へ召されたアシュリーちゃんは生前自分に対して悪い態度をとる人に対して、「あの人は今日とても悲しいことがあったのかもね」と神にその人の為に祈っていたそうです。クリスチャンだったアシュリーちゃんは人の悪い態度に目を向けていたのではなく、しっかりと自分を見つめる事ができていました。自分に悪い態度をとった人と同じように自分にも汚い心があり人を傷つけてきたと言うことをよく理解していました。ですから、そのようにできたのです。これが神の知恵と言えるのではないのでしょうか。神を知っているか知らないかの違いはここにあるのではないのでしょうか。あなたは自らを見直す道具を持っているのでしょうか。自分がどんなに小さい人間でありどんなに愚かな事を言っているのでしょうか。「自分が大変」「自分が苦しい」「つらい」そのように自分の主義主張を通そうとすると自ずと悪い態度になってしまうものです。自分にされた事にたいする文句ばかり言う生き様は悲しすぎるではありませんか。人に指を指すばかりの人生を止めなければなりません。神の偉大さを感じる時、人は自分の小ささを知る事ができます。不足に目をむけることがなく、自分の願いをへりくだって神に祈る事ができます。そしてその祈りは聞かれるでしょう。一切のものを満たして下さる偉大な神をもう一度見つめ直しましょう。神の知恵を得るために**①神が創られたものを知る**。神の奇跡は目の前にたくさんあります。私たちの周りにある水や空気太陽、全ての環境がもう既に奇跡であり、与えられた完璧な環境です。しかし不足にばかり目が向いては、それすらも気づく事ができません。神が創られた作品を知る事で自分の不足を補う事ができます。そして補い合う事ができます。それが教会であり神が与えて下さっている場所です。不足ばかりに目が向いては過去に捕らわれ繰り返す人生になってしまいます。ですからまず、あなたが「すごいな」と思えるものから見てみましょう。**②教会から学ぶ**。教会は私達自身であり隣に居る一人ひとりです。人の不足に目を向けるのではなく、その人がどんなに素晴らしく神に創られたのかをみましょう。互いに補い合い学びあい戒めあえるのが教会の素晴らしい所です。素晴らしいところを人に流し足りないところは人から学ばばよいのです。これは比較ではありません。比較は裁きに到ります。私たちの見方次第です。有言実行だったマザーテレサは生前「神は偉大な事をするために私達を創られた。その偉大なこととは互いに愛し合い、愛を伝える事だ」と言っています。愛されていることをしり、愛し合える事ができる教会から学びましょう。**③その神の知恵を信じる**。あなたが知った神の知恵を受け入れて下さい。神の知恵は過去のものではないので、私たちの知識では受け入れられないこともあります。知識より知恵はおろかにかんじることもあるかもしれません。ですから「でも」「だって」と言いたくなりますが、思い切ってそれらの言葉を捨てましょう。神は私たちが確実にできる事を与えて下さいます。ですからおろかに思える事が大切です。それを大切に初めて神の知恵を得る事ができるのです。あなたの願いを不平からではなく神の偉大さから願って下さい。そして神に与えられている知恵を実行して下さい。そうすることで私たちは奇跡を見、愛のある生活を送る事ができます。（要約者：牧唯恵）